野中準編録

修身寶訓

尋常科

卷二

66
491

大日本教育會書籍館
一八函
五架
一一〇號
三册

漢書門

館
三
冊

K/20.1
2

野中晦堂編録

修身寶訓

東京　二書房藏梓

明治十九年三月三日内務省届出

修身寶訓卷之二

野中晦堂編

第一章

○父母の恩きハまりなきこと。天地にひとし。大和俗訓

○人の子たるもの。孝道を念々忘るべからず。梧窓漫筆

○父母在せバ。敢て其身を有せず。敢て其財を私せず。（禮記）

○人の子たるもの。父母の心を以て。己が心とせバ。孝といふべし。（文中子）

○父母の身を孝養ことも。其心を安んぜずしてハ。大なる不孝といふべし。（六諭衍義）

○父母の愛するところハ。おれを愛し。父母の敬するところハ。おれを敬す。（内則）

○能く兄ふ事へて。もとらざるを。悌といひ。弟を愛し。むつまじきを。友といふ。（日新館童子訓）

○孝悌恭順の人ハ。高慢の心なく。

ほーいまゝなる。行ひなー。故ふ孝弟ハ善を行ふのむづめ。梧窓漫筆

○常ふ大小となく。力を合ハせ。兄弟むつまじく。父母の心を。歡バーむるを。務めとすべー。日新館童子訓

○兄ハ。弟を愛ー。言ふとおろ。行ふとおろ。弟の手本となるやう。むつまじく。教ふべー。仝上

○親ふハ。愛を主とーて。敬を行ふべー。君ふハ。敬を主どーて。愛を行

ふべし。大和俗訓

○君ハ臣をあハれみ。臣ハ君ヨ忠をつくすべし。仝上

○父ハ子をいつくしみ。子ハ親に孝をつくすべし。仝上

○師長ヨ事ふるにハ。禮を貴ぶなり。朋友ヨ交ハるにハ。信を貴ぶなり。朱子家訓

○長者ハ幼きをめぐみ。幼きハ長者をうやまふべし。大和俗訓

○朋友ハたがひヨ。信ありてたのもしく。表裏なかるべし。仝上

○忠孝禮義の道を。知らざれバ。面ハ人ヨして。心ハ禽獸にひとし。日新

館童子訓

○天地の間。貴ぶべき者ハ。仁心仁愛なり。志バらくも。此心を失ふべからず。梧窓漫筆後編

○己レグ欲せざるとおろハ。人ふ施さゝとなれ。論語

○よろづのおと。禮あれバ。すぢめよくして。行ハれやすく。心も亦定りてやすし。童子訓

第二章

○學び習ふこと。まづかたちを正しく。己レをへりくだり。敬ふて。其業を受くべし。日新館童子訓

○玉。みがゝざれバ。器をなさず。人。

學ばざれバ。道をしらぎ。禮記

○知らざれバ。人ふ問ふて。知るべし。人に問ふを恥るものハ。百事終ふ成るべからず。坐右銘

○學ぶ人ハ。只我が智のくらく。我ゞ德のもゝまざるおとを。憂ふべし。童子訓

○勉强して。學問すれバ。聞見ひろくして。智ますく明かなり。前漢書

○學問の道ハ。唯二つ。善をならふと。邪をふせぐとのみ。東涯漫筆

○志を立つるかたからざれバ。はひふ業を。成すおとあたハず。闇の曙

○善を好ミ。惡をきらふおと。誠あ

らバ心を正しくするとやすかるべし。大和俗訓

○眞ふ學をこのむ人ハたのづから心を飲食衣服ふうむハれず。嚶鳴館遺草

○志をたてゝつとめ行ハゞその功つもりて必ず人ふまさるべし。

大和俗訓

○業の成ると志からざるとハ勤むると惰るとふあり。徒然草

○不肖もつとむれバ賢となり智も惰れバ不肖となる。仝上

○其足らざるを知る故ふ自ら責む其小成を安んず故ふ自ら喜ぶ。

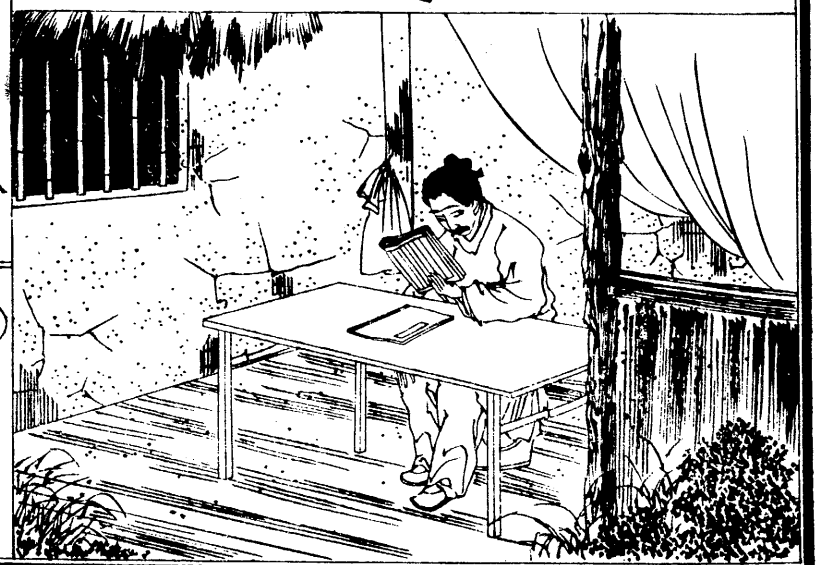
素餐録

○人倫ふまどハり。萬事を行ふふ。心平らふ。氣やハらぎて。志づかなるべー。大和俗訓

○道近ーといへども。行かざれバ。至らず。事小なりといへども。爲さざれバ成らず。韓詩外傳

○勤めハ。萬事の立ちて。行ハるゝ所なり。つとめざれば。れたたりて。何事もすたる。初學訓

○けふ暮れて。明日もありとて。た



のむべからず。けふの日の内を。日日ふ惜むべし。樂訓

○名をなすハ。つねふ窮苦の日ふあり。事を敗るハ。多く得意の時による。願體俚諺鈔

○男兒ハ。つとめて。氣象ハ盛んふし。人に及ぼざるを。甘んずるなかれ。氣象ハ萬能の基ゐ。父兄訓

第三章

○身ハをさむるにハ一すぢふ誠の道を行ふべし。大和俗訓

○そのたゝろばせを。誠ふするハ。自ら修むるの首めなり。初學知要

○人の誠をなすたとハ。天地神明

に通じてよろづの人おもを仰ぐ。藤原秀郷遺訓

○人を感ぜしむる能ハざる者ハ。まことの未だいたらざるなり。禮記

○自ら敬すれバ。人之を敬す。自ら慢れバ。人之を慢る。讀書録

○過ちハ。不敬より生ず。敬すれバ。過ちなのづからなくなる。言志後録

○敬以て己を持し。謙以て人ふ接すれバ。過ちすくなかるべし。省心雜言

○善を行ふふ。愛敬の心を本とすべし。其人ふ志たがひ。愛敬ふあつきうすきハ有るべし。初學訓

○言ぶをつゝしみ。行ひをつゝし

むハ。是レ身を修むる。專一の事。（從政名言）

○平日たそれつゝしみ。事の過ち。なきやうふすべし。（日新館童子訓）

○隱れたるより見るゝハなく。微しきより顯らなるハなし。故ふ君子ハ。其獨りをつゝしむ。（中庸）

○病ひを。病ひなきの日ふ。つゝし

めバ。病ひなし。患ひを。患ひなきの日ふ。患ふれバ。患ひなし。（言志耄録）

○人の事をなす。始めをつゝしみ。終りをたもんパらまバ。大なる悔いなし。（寶訓文彙）

○事の前ふして。恐懼をれバ。以て禍を免かるべし。（省心雜言）

○事の後ふして。恐懼もれバ。以て過ちを改むべし。（省心雜言）

○君子ハ。正直ふして。うたがハず。直言していまず。（杏翁醉話）

○己を正しふして。のち人を正す。己正しからざれバ。何ぞ能く人を正さん。（寶訓文彙）

○人。偽りを慎しむべし。心いつはりあれバ。自ら言ふ發し。終身をいやまるふ至る。（仝上）

○公ふして。私なけれバ。道理ふ叶ひ。天意ふ叶ひ。人心ふ叶ふ。（大和俗訓）

第四章

㊀善人と交ハる者ハ。いよく久し

けれバ。いよくうやまふ。願體俚諺鈔

○人ハ善惡ハ。只心ふ存して。口に出すべからず。仝上

○善人ふ交ハれバ。日々善言を聞き。善事を見。ならひて。益あり。大和俗訓

○人をそしり。人悪云ひをとすハと。不仁ハ甚しきなり。仝上

○人ふ施して。ハ念ふなの礼。施しをうけてハ。忘るゝなかれ。世範

○人を愛する者ハ。人恒ふ。ハれを愛し。人を敬する者ハ。人恒に。ハれを敬す。孟子

○人を欺かざる者ハ。人またあへて欺ず。人を欺く者ハ。却て人ふ

欺りる。言志鬼録

○久しく交ハりて。たがひふ心や
すくなりゆくまゝに。無禮をなす
べからず。大和俗訓

○身ふ行ハず。口にいふハ。信なき
なり。人と約して。其事を變ずるも。
信なきなり。日新館童子訓

○人。我ふ志たがハず。我ふろむり
バ。我が過ちをせめて。人をとがむ
べからぎ。大和俗訓

○人ふ交ハるに。禮義たゞしく。慇
懃なれバ。人と我との間。とゞこほ
りなくして。和らぎむつまじ。大和俗訓

○年長ぜる人ふ。遇ふ時ハ。恭しく

禮を行ふて兄の如く敬ふべし。願體

俚諺鈔

○言ずを出すに我ゞ身をりへりみて分ふ過ぎたるおとをバいふべゝらず。大和俗訓

○喜びふ乘ゞて多言すべからず。快きに乘ゞて事をやすふすべからぞ。從政名言

○我ゞ志をへりくだりて我ゞ身に才ありとて誇るべゝらず。初學訓

○我ゞ善ハ大なりともかくして自ら譽むべゝらず。仝上

○あやまちを免かるゝの道ハ謙るとふ在り。言志耄録

○自ら謙るときハ。人いよく服す。自ら誇るときハ。人必ずうたがふ。願體俚諺鈔

第五章

○養生を能くつゝしめバ。命なゞし。初學訓

○養生の道も。亦よくつゝしみて。

慾をさらゆるふあり。仝上

○小兒ハ。脾胃もろくしてせバし。故ふ食。やぶられやすし。養生訓

○口腹節あらざるハ。疾をいたすの本。思慮正しからざるハ。身找さろすゝ本。省心雜言

○朝早く起くるは。家の榮ゆるき

ざーなり。晩く起くるハ。家ゑ衰ふるもとゐなり。大和俗訓

○凡うもろくの。卑ーく幼きもの。事大小となく。專らふ行ふさとを得るなゐれ。必ず家長ふとひうけよ。溫公家訓

○女子ハ。幼稚の時より。男子と別を正ーくー。假初にも。戯れたるさと栈。見聞らーむべからず。女大學

○言ず栈慎ーみて。多くをべららず。苟くも人栈誹り。偽りを言ふべからず。仝上

○儉約を行ひて。みだりふ。財をつひやさゞれバ。よく家栈たもちて。

貧しらず。初學訓

○務むべき家業なし。よくつとめ行へバ利ハ求めずして。おのづから來る。仝上

○勤めて。儉ふまるの工夫ハ。勞を忍び。苦を忍び。よく力め行ふふあるのみ。家道訓

第六章

○君子ハ言ふとふ訥くして。行ひふ敏からんとと欲す。論語

○我ゞ身ふ善を行ふて。人ふ善を進むべし。大和俗訓

○惡の小なるを以て之をなすとなかれ。善の小なるを以て之を

なさゞるおと勿れ。願體俚諺鈔

○善ハ自ら益あり。惡ハ自ら損あり。故ふ君子ハ。其益をつとめて。其損をふせぐ。仝上

○一日の中。或ハ一の善言を聞き。一の善行を見。一の善事ハ行へバ。此日虛しく度らずとす。紳瑜

○人行義を修め。生産を治め。身體ハ保つ。此三つハ者。人道の因て立つ所なり。東涯漫筆

○晝ハ爲す所ハ。夜必ず之を思ひ。善あれバ樂しみ。過ちあれバ懼る。省心錄

○身ハをさむるふハ。過惡をあら

ためて。善にうつる找。つとめとも
べし。大和俗訓

○行ひ曲れる事あらバ。速ふ改め
て。正しきふ從ふべし。因循して。曲
れるふ從ふ𢌿ゐらぎ。日新館童子訓

○真實心ふ善を好むハ。自ら己ゞ
過ちを尋ぬべし。然らバ次弟ふ。善

に進むべし。願體俚諺鈔

○他人。我を責むるふ。過ちあるを
以てせバ。少しも怒るおとなく。心
找虛しふして。ものきらむ𢌿し。上

○少年ハ。物おとふ。艱難をつとめ
ざらんおと找恐る。上

○よろづ𠮷事。えじめふ苦勞せず

して。おこたれバ。後ふ功成らずして。樂しみなし。大和俗訓

○堪忍心薄く。古らえおふせざるハ。皆氣弱ゝなす所なり。日新館童子訓

○善ふハ。よき報ひあり。惡ふハ。惡しき報ひあり。善惡ふ報ひなきハ。時節未だいたらず。事林廣記

○足るを知る者ハ。貧賤も亦たのし。足る找知らざる者ハ。富貴も亦うれしふ。省心録

第七章

○人と生れて人ハ道をきらでむなしくこの世を過ぎなんことうきふべし。大和俗訓

○君子ハ身を修めて道徳を樂しむ。徳ハ修むれバ日々ニ益す。智ハ慮れバ日々ニ滿つ。願體俚諺鈔

○己をゆるして人をせむるハ大

なるひゞ事なり。初學訓

○人おゝれバ志くらし。志くらけれバ計りことみゝかし。傳家寶

○君子ハ道ニ從ふ戔樂しゝ。小人ハ慾ニ從ふを樂しむ。樂訓

○徳行ハ我より上なる人を見てうらやゝかれニ及ぜんことを思

ふべし。大和俗訓

○德のあつき者ハ。其光り找流す。德ゝうすき者ハ。其卑しきを流す。穀梁傳

○心找ほしいまゝふしてつゞまやかにせざれバ。過ち多くして禍あり。初學訓

○勝ち找好む者ハ。必ず爭ふ。榮えを貪る者ハ。必ず辱のしめらる。省心雜言

○人。我ふ無禮なりとて。我ゞ恥辱ふ。ならざるなとハ。空ぞむ。ならざるなり。大和俗訓

○詐りを迎へ。未だ其事至らざるを疑ひ。或ハ不信を懷くべからず。

日新館童子訓

○金銀をみだりふ。はこのふ者ハ。必ず福を損し。晩年ふ至りて。貧窮する者なり。願體俚諺鈔

○人の我ふ不義無禮なるをバ。いろり恨むべからず。それも人ハあやまりなれバ。我が心ふあづからず。大和俗訓

○小人ハ。眼前の利を見て。ハれを悦び。君子ハ。未然ハ害を見て。ハれ戔恐る。駿臺雜話

○多言ハまバ。道ふ背く。多慾ハれバ。生を傷ぶる。省心雜言

○國法をおそれまもり。上たる人

の行ひ國家ハ政をそーるべからぞ。家道訓

○君の恩ハ。其土地より生ぞる穀を食ー其國ヨ居るも。皆君の徳を。いたゞくなり。日新館童子訓

修身寶訓卷之二終

明治十九年四月十七日版權稟准
同　年五月一日　出版頒行

編輯兼出版人　大分縣士族　野中準　東京本郷區湯島新花七十四番地
出版人　長野縣平民　岡本啓次郎　同下谷區練塀町廿三番地
發賣人　北畠茂兵衛　同日本橋區通壹丁目
北澤伊八　同淺草區茅町貳丁目
坂上半七　同日本橋區十軒店
山中孝之助　同京橋區銀座貳丁目
價金九錢

野中編輯

修身寶訓

尋常科

卷三

東京帝國大學圖書館
漢書門
一八函
五架
一一〇號
三冊
三冊

大日本教育會書籍館

66
491

K120.1
3